

## Juju Information Vol.66

## Juju(こと、野田樹潤)

## BOSS GP 第2ラウンド ドイツ・ニュルブルクリンク

欠場の危機に、国境を越えて”なんとか、Jujuを走らせたい”とライバルチーム  
その思いに応じて、借り物のレースカーで、レース1は、3位表彰台に  
レース2は、昨年のチャンピオンとの優勝争いの末に、終盤のアクシデントでリタイア

5月24日(金)-26日(日)、ドイツ・ニュルブルクリンクで行われたBOSS GP第2ラウンドは、Juju(こと野田樹潤)にとって、いまだ経験しなかった試練のレースとなりました。24日(金)のプラクティスで発生したマシントラブルが、予選までに修復されず、出場をあきらめざるを得



“借り物マシン”でバトルする Juju (右)

ない事態に。これに、ライバルチームが、“なんとか、Jujuを走らせたい”と、スペアカーの提供を申し出。

チーム全員が「負けても負けても諦めない」精神で、走行準備と最低限の調整をして予選開始から数分遅れでコースに。それにもかかわらず、Jujuは予選終了まで残り3秒を切った最終ラップに、昨年の年間チャンピオンであるチームメイトに続く2番手タイムを記録しました。

決勝レース1、Jujuは、スタートでトップに立ちましたが、その後、チームメイトの無謀ともいえる強引なアタックを受けます。Jujuは、接触を避けるため止む無くコース外へ出ざるをえず、それによって一旦は順位を4位まで下げます。しかし、セッティングもあっていない、不慣れなマシンでも、適応力の高さで順位を挽回し、3位でフィニッシュ。



コース外に押し出される Juju (左)

決勝レース2は、「思ったような走りはできないけど(借り物車両でセット変更ができないため)それをうまく乗りこなすのも自分の肥やしになるのだし、全力でレースを楽しむつもり」(Juju)でスタート。レース開始早々は、ポジションをキープして2番手。何度か、抜きにかかりましたが、ここでも「危険さを感じるブロック」



(Juju) にあった挙句に、2 周を残したところで、トップを行くチームメイトを抜くためにブレーキングを遅らせたところ、オーバースピードでスピンしてしまいそのままレースを終了しました。

Juju は、「今日のバトルはとても良い経験になったと思う。ダウンフォースのあるマシンで常にコンマ数秒の差を保って走るの、ダウンフォースが乱れるので簡単なことではありません。それをやれたことがとても自信になりました。目くじらを立てるよりも(チームメイトの強引なブロックに対して)今日の経験を明日に活かし、自分が向上することに意識を持っていった方が余程ためになる。」と振り返りました。

さらに、「2 週間後のオーストリア、レッドブルリングで第 3 ラウンド。ここは去年も走っているの、良いレースにしたいと思います。苦しい週末に声援を送り続けてくださった皆さん、ありがとうございました。スタンドで日本の国旗を振ってくれていたのも嬉しかったです。」



そして、「本日のレースでスピンをして歩いてピットまで帰っている時にグランドスタンドからのたくさんの拍手も自信になりました。次は自分のマシンで思いっきり走れる事を楽しみにしています。最後にスポンサーロゴが入っていない車両でレースに出走したことに、ご理解をくださったスポンサーのみなさんには感謝しかございません。」と、感謝のことばとともに、冷静に次のレースを見据えていました。



24 日(金)、レース初日のプラクティス 1 回目は大雨。エンジンにミスファイアが発生しパワーが出ず、途中でピットイン。2 回目のプラクティスに向けて懸命に修復を試みますが、原因が特定できず。「2 回目、走れることを祈ろう。」と、作業を見守る Juju ですが、トラブルは解決できず、2 回目のプラクティスは走れませんでした。「クルーのみんなも一生懸命なんだけど、うまくいかない時はこう言うものかもしれないですね。」と、珍しく、弱気を見せる Juju です。

メカニックは、予選に向けて徹夜で作業を行いました。マシントラブルは修復できないまま。今回の参戦は断念と、苦渋の決断。その直後に、ライバルチームが「スぺアカーを使わないかと...。」との申し出てくれたのです。その時点で予選開始まで 1 時間を切っていたので、それから最低限の準備をしても間に合わせるには困難な状況。しかし、チーム全員が「負けても負けても諦めない」精神でやってみることに。

トランスポーター(レースカー専用の運搬車両)から車両を出してきて、走行準備と最低限の調整。予選開始時間の数分遅れでコースイン。ドライビングポジションやセッティングなどはまったく合っていませんが、「その状況での最高の結果を出すことが、その時の自分にできること。」と Juju。前日のフリー走行も走れず、いきなり挑んだ予選ですが、当然ながら毎週タイムアップしていき、最終ラップにはチームメイトに継いで 2 番手に上がって予選終了。ピットに戻ってくると、Juju のチームスタッフはもちろん、他のチームや観客までが拍手で Juju を迎えます。



「やれるだけの結果は出せたと思うけど、自分のマシンで思う存分走れてたらと思うと悔しさ半分」という Juju ですが、Juju が走らなければポジションを上げられていたライバルチームは、「わざわざ日本から来て、走れないのは可哀想だ」と。「なんて懐の深いチームオーナーなんだろう。」と感激しきりの Juju でした。Juju のカーナンバー 22 の“手作りゼッケン”が、応援してくれるみんなの思いを表していました。

決勝レース 1、スタートでトップ。借り物のマシンでセッティングあわず思うような走りができません。それでも、マシンへの適応力の高さを発揮し、マシンの良いところを少しでも活かしてタイムアップできるような工夫をしながらの走行。周回ごとにタイムアップし、一時は 9 秒ほどあった 4 位との差を詰めて追い越し、その後も乗り難いマシンを工夫しながらペースを上げ、ファステストを記録して 3 位でフィニッシュ。レース後に和解したとはいえ、チームメイトとの強引なバトルに、表彰台ではやや不機嫌な Juju でした。



スターティンググリッド

「レースに出るためにマシンを貸してくれた Scuderia Palladio、Marco Ghiotto と徹夜でトラブルの修復作業にあたってくれた MMI Motorsport に感謝です。借り物のマシンで、本来のスポンサーさんのロゴが入っていないことに心が痛い。」(Juju)

26日(日)の決勝レース2は、レース開始早々、ポジションキープの2番手。Jujuは、自身のペースが先行するチームメイトのシモーネ選手を上回っているとみるや、幾度となくシモーネ選

手に並びかけ、追い越しを試みます。ところが、前日のレース1後に話し合ったにもかかわらず、このレースでも Juju は、シモーネ選手から危険を感じる程の無謀なブロックを受けます。チームからシモーネ選手に危険なブロックはせず、Juju の居場所を残すような指示はあったようですが、状況は変わらず。何度もコース外に追い出され、残り2周となったところで、抜くためにブレーキングを遅らせすぎてスピンし、レースを終了しました。

Juju は、「あんな強烈なブロックを攻略できたらもっとテクニックのあるドライバーになれるし、もっと言えば、スタートからぶっちぎれば良いだけのことだけど、それじゃヨーロッパまで経験を積みこいでいる意味がない。そういう意味では、今日のバトルはとても良い経験になったと思う。ダウンフォースのあるマシンで常にコンマ数秒の差を保って走るの、ダウンフォースが乱れるので簡単な事ではない。それをやれたことがとても自信になりました。ただ、本当に危険を伴うような経験はあまりしたくないですね。次のレースは、2週間後のオーストリア・レッドブルリング。ここは昨年走っているの、良いレースにしたいと思います。次は、自分のマシンで思いっきり走れることを楽しみにしています。」と、いつもの笑顔に戻っていました。



この件に関するお問い合わせ先：NODA RACING 広報担当 石川  
e-mail t.ishikawa@noda-racing-academy.org Mobile 090-8940-1683  
岡山・美作事務局 担当 須田  
Tel.0868-75-3283/Mob.090-5128-3064 mail k.suda@noda-racing-consultans.biz